

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	○	○
	やや良くなる		
		商店街（代表者）	・新政権になり、景気対策のテコ入れをしたことが、客にプラスの影響を与えている。将来への不安が少し払しょくされ、客の財布のひもは少し緩んでいる。
		商店街（代表者）	・政権が代わり、アベノミクスに期待される。消費税増税や電気料金・ガソリンの値上げ、また食料品においても小麦粉の値上げが発表されており、厳しいところもある。
		商店街（代表者）	・政権交代等の政治の動きは小売店にあまり影響を与えていない。小売店の廃業が増えているのも確かであるが、入学式や卒業式等の制服関連に動きがあり、例年より良い状況である。今後もこの状況が続く。
		商店街（代表者）	・贈答品や合鍵等の動きが間違いなく増える。しかし、物品販売業に関しては現状のまま推移する。
		商店街（代表者）	・3月になると異動期になり、消費が活発になる。また天候も良くなるので、今後、景気は浮揚する。
		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・これから5月の母の日までは卒業式等の花の需要があり、毎年良くなる。ただ、企業の予算削減により、企業向けの花の需要が減る懸念もある。
		百貨店（売場主任）	・新政権になり、景気浮揚の好材料が出てきている。消費者のなかにも景気が良くなるのではないかと期待感が醸成されつつある。このまま安定的な政権運営が行われていけば、商圏内にある自動車産業の業績が好転し、消費の活性化につながる。また、クールビズも3年目でそろそろ半袖ワイシャツの買換え需要があり、前年に比べると盛り上がる。
		百貨店（総務担当）	・当施設の核テナントである百貨店の売上が若干上昇傾向にある。来客数も回復傾向にあり、今後に期待できる。
		百貨店（企画）	・宝石や美術品等の高額商品の動きが良くなっており、景気はやや良くなる。
		百貨店（営業統括）	・来客数が増えており、今後の購買の増加が期待される。
		スーパー（店長）	・競合店出店から約1年が経過し、その影響は少なくなる。今後は、来客数の伸びが期待される。
		コンビニ（経営者）	・消費マインドがやや回復に向かっており、今後それが具現化してくる。
		コンビニ（販売促進担当）	・ここ数年、小麦粉の卸価格が上がったり、下がったりの繰り返しであるが、売れ筋の菓子パン等は価格を変えずに大きさを変えて対応し、例年並みの動きとなっている。食パンについても上向き傾向で、販売個数は伸びている。今後、景気は若干良くなる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・今から春にかけて少しずつ暖かくなっていき、今よりも客が外に出る機会が増え、売上は少しずつ改善されていく。それに伴って、プラス1品の買物が増え、売上は少しずつ回復する。
		衣料品専門店（店長）	・現状売上が良く、このまま伸びる。
		衣料品専門店（総務担当）	・政権交代により、経済政策がかなり大胆に変更され、消費動向はプラスに動いている。また株価にも表れており、景気はこれからやや良くなる。
		衣料品専門店（チーフ）	・ここ2、3か月間、売上が日々上昇し続けている。またアジア各国の客の来店が増えているため、今後の売上にはまだ伸びしろがある。
		家電量販店（店員）	・景気はまだまだ悪いが、アベノミクスはうまくいっており、株価が上がっている。少しは明るい材料であり、今後、景気はやや良くなる。
	乗用車販売店（代表）	・消費者の様子をみる限り、3か月先の景気は多少なりとも上向きになる。	
	住関連専門店（店長）	・農家が多い土地であり、今後のTPPの方向性にかかなり左右されるが、景気対策への期待が感じられるため、全体的には良い方向へ進む。	
	その他専門店〔コーヒード豆〕 （経営者）	・3、4月には卒業、入学というシーズンを迎えるのでちょっとしたギフト物がこれから出る。また気候が暖かくなるにつれ、客の出入りが多くなるので、それに見合う販売量が見込める。	
	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕 （従業員）	・空港内の店舗改装が終わり、コンビニエンスストアの新規開店がある。集客力が高まるため、商品の動きが良くなる。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕 （広報担当）	・政権交代後の金融政策等による円安や株価に動きがあり、経済環境が明らかに変化している。先行きの期待感から、今後消費活動は良くなる。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・3月も引き続き予約状況は良い。	

都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は例年と比較しても好調な状況であり、大型コンベンションも開催される。	
都市型ホテル（副支配人）	・予約自体は少しずつ遅れてきているが、個人の動きが非常に良く、今後も良い状況が続く。	
旅行代理店（企画）	・さらなる株価の上昇と円安の進行により、メーカーで働く人の景気が良くなる。一方で、中国や韓国との領土問題による観光産業への打撃が懸念される。	
タクシー運転手	・今のところは官主導で動いているが、企業ごとに民の動きも少しずつ出てきているので、この先少しずつ世の中の景気が回復していく。	
通信会社（販売部）	・3、4月は卒業・入学や入社、異動等のイベントがあるため、それに合わせて携帯電話の需要が高まる。	
通信会社（営業担当）	・今、政府が推し進めている経済政策を確実に実行し、今の状況が続けば、景気は良くなる。	
競輪場（職員）	・堅調な売上が持続している。	
美容室（経営者）	・化粧品業界は、暖かくなると春物、薄手の洋服が変わってきて、化粧品等が動く。それに合わせて今の景気対策が少しずつ浸透し、景気回復につながると大変期待している。	
理容室（経営者）	・今月から学校の卒業等の行事があり動きは良くなる。3、4月はまだ入学等の行事があるので、今後も期待される。	
美容室（店長）	・来月の予約も入っており、少しずつではあるが景気が良くなっている。	
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・在宅サービスの需要が拡大する季節時期でもあり、また政権交代による補正予算により、さまざまな助成事業のチャンスが期待できる。	
設計事務所（所長）	・予定されている官公庁の工事が5月ごろから発注されるので、景気はやや良くなる。	
設計事務所（代表）	・消費税増税前の駆け込みでやや良くなる。	
住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の影響が特需として顕在化してくる。	
住宅販売会社（代表）	・基本的にはやや良くなっていく。それは税制の優遇等政策の形が変わってきているところが影響している。	
変わらない	商店街（代表者）	・商店街における他店の話でも、売上が良くなったという話は聞かない。何とか現状を維持しているのが現状であり、今後も変わらない。
商店街（代表者）	・アベノミクスによる円安や株価の上昇で、大手企業や製造関連企業の業績回復が連日ニュースで伝えられているが、一般消費者のレベルでは全く実感がない。特に高齢者や主婦層では、円安による原油価格の上昇や電気ガス料金の値上げ等により、購買意欲の減退が懸念される。	
商店街（代表者）	・世間では政権交代をしたアベノミクスで景気が良くなっていると言われているが、これはムードが先行しており、実際には消費は低調な状態が続いている。これからもこの状況が続く。	
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・卒業・入学シーズンであるが、最近では家でお祝いをするのが少なくなっている。お祝いをして、鉢盛等の需要はなくなっている。今後も厳しい状況が続く。	
一般小売店〔精肉〕（店員）	・景気が良くなるという要素が今のところ生鮮食品業界では見当たらない。	
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・円安、株高により景気が少し回復したかのようにみえるが、消費者はまだ節約傾向にあり、一般小売店にまで景気回復感伝わってこない。必需品であるガソリンや電気代の値上げもあり、買い控えはまだ続く。	
百貨店（営業担当）	・自家消費の物産催事での購入意欲はおう盛であるが、冬物衣料バーゲンや春物正価販売品の動きが今一歩である。クレジットカード利用者の買い控えや現金の貯蓄傾向は今後も続く。	
百貨店（売場担当）	・来客数は前年比1～2%減でずっと推移しており、それほど下振れはしていない。3月いっぱいでは他地域の店舗が閉店し、そちらの客を取り入れる営業をするため、今後はややプラスとなる。ただ気候要因がかなり影響してくる。	
百貨店（営業政策担当）	・景気の底上げとなる与件は当面見当たらず、各商業施設の施策によるパイの奪い合いの構図が続く。消費税増税前の駆け込み需要も、次年度後半の効果に限定される。	
百貨店（売場担当）	・ガソリン代も光熱費も上がっており、消費動向は今後、厳しくなる。	
百貨店（業務担当）	・季節の立ち上がりには、春物の動きが鈍い。ここにきて気温が平年より低いのも原因であるが、必要な時期に必要な買物をする行動パターンが続いており、必要な買物は購入しないという動きに変わりはない。	

スーパー（経営者）	・富裕層については良くなる傾向にあるが、その他の消費者層にとっては物価の高騰等による不安感が残っている。今後も厳しい状況が続く。
スーパー（店長）	・円安が更に進み、小麦を中心とした各種食品の値上がりやガソリンの店頭価格の上昇といった状況下で、客は生活防衛に走り、買い控え傾向となる。可処分所得が増えなければ、景気浮揚とはならない。今後も厳しい状況が続く。
スーパー（店長）	・一般的には景気回復基調がささやかれているものの、店舗の売上自体は厳しい。同業各社との価格競争も相変わらず続いており、先行きは楽観視できない。
スーパー（店長）	・競合店がディスカウント化になって、5月で1年が経過する。その影響は変わらない状況であり、今後も前年比7%減ぐらいで推移する。
スーパー（店長）	・政府の景気対策で景気は上向きになると思われるが、企業の業績が社員の給与に反映されるまでにかかり時間がかかる。特に光熱費のアップで家計は非常に苦しくなり、3か月後についても景気回復はあまり見込めない。
スーパー（総務担当）	・大きな新規参入がないため、競争環境は大きく変化しない。今後も現在の景気状況で推移する。
スーパー（総務担当）	・日々の買物にかかる金額は相変わらず上向き傾向にならず、競合も含め低価格戦略による客の獲得競争が継続する。
スーパー（業務担当）	・春物の動向が前年並みで推移しており、非食品部門の売上の伸長は期待できない。ゴールデンウィークへ向けて顧客動員ができるイベントの計画も経費縮小で難しくなっており、来客数の増加も期待できない。
衣料品専門店（店員）	・客は単価にとってもシビアになっている。特にセレモニー服等で単価を抑えようとしているのが伝わってくる。
衣料品専門店（取締役）	・アパレルファッションは季節に左右される。2～5月であれば季節的には春物、初夏の物が動く時期なので、売上は上がる。ただ、前年に比べるとどうなのかは全く不透明である。
家電量販店（店員）	・家電製品に対する購買意欲が全然伸びていない。国の公共事業費の拡大で全体的に景気が良くなっているような印象を受けるが、末端のエンドユーザー目線で景気が良くなるのは、もうしばらく時間がかかる。現状のずっと悪い状態が続く。
家電量販店（総務担当）	・地域の競合店も昨年と比較すると来客数が減少している。今後も厳しい状況が続く。
乗用車販売店（総務担当）	・新型車の発売は当分無いが、引き続き新車販売が好調に推移する。今月と同レベルの売上、収益が期待できる。
住関連専門店（経営者）	・円安で輸入商品の値上がりが懸念され、輸入家具と国産家具の価格差が縮まり、国産家具が売れやすくなる。物価は上がるものの、所得が横ばい状態であり、厳しい状況が続く。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今後、燃料油については値上げ傾向が予想され、物流等に与える影響が危惧される。客は燃料油の値上げについてはやむなしという様子であるが、燃料油以外のカーケア商品の購入について慎重になってきている。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・景気浮揚の期待はあるが、地方の末端に波及してくるには、多少時間がかかる。
その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・現在、トレンドとしては落ち込んでおり、景気浮上の気配はなかなかみられない。伸びる商品はあるものの、全体には波及してこない。周辺の景気回復はあったとしても、身の回りに及ぶとは考えにくい。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・景気対策は期待できるものの、ガソリン価格の値上げや小麦価格の高騰等懸念材料もあり、今後、消費は活性化されない。
高級レストラン（支配人）	・予約や問い合わせが少なく、景気が良くなる見通しがない。
高級レストラン（専務）	・政権が代わり、株価や円安等の報道がされているが、飲食店に影響はない。景気が良くなるのは半年後ぐらいで、予約もまだまだ悪い状態である。
居酒屋（経営者）	・周りに店をたたむという声も多く、景気が良くなる気配はなかなか感じられない。今後も厳しい状況が続く。
観光ホテル（総務）	・収入予測が変わらない。
観光型ホテル（専務）	・消費税が上がり、景気が上向き要因が見当たらない。
旅行代理店（従業員）	・4、5月の海外の予約は、前年同時期より早い。円安による駆け込み需要や早期予約割引の充実により、予約が早まる傾向にある。
タクシー運転手	・3、4月はタクシーの昼の利用が特に少なく、夜の歓送迎会が少しあるだけで、例年あまり良くない。今年も同じ状況となる。

		タクシー運転手	・ある会社の客から今後2、3か月先の状況は明るいという話を聞いた。予約状況も割と良くなっている。
		通信会社（管理担当）	・債権回収が上手くいっていない。
		通信会社（企画担当）	・販売量に影響を与える要因が見つからない。
		通信会社（業務担当）	・3月は例年であれば卒業シーズンで携帯新規契約及び買換え台数が大きく伸びることが期待されるが、スマートフォンの販売は他社からの攻勢でシェアを減らしている。月間の販売数は昨年を下回ると予想される。
		通信会社（総務局）	・個人消費の改善には時間がかかる。
		ゴルフ場（従業員）	・プレーヤーの予約状況として、3～5月は通年では5月のゴールデンウィークの予約の問い合わせがきている状態であるが、出足を控かれている。観光業に対する消費意欲は沈滞している。5月ぐらいまでは変わらない。
		ゴルフ場（支配人）	・3月のコンペ予約は徐々に入っているが、多くはない。個人客が多いため、直前にならないと予約が固まらず、天候に左右される。ビジター獲得を戦略として格安料金のセールが激化しており、少々の割引料金では集客が困難である。
		設計事務所（所長）	・結果が出るのが案件が出てから半年から1年かかるので、3か月先は今の状態と同じである。
		住宅販売会社（従業員）	・景気は日経平均や円安にけん引されているように見受けられるが、不動産関係にはあまりそういう影響はない。賃金等の上昇を期待しているが、動きは鈍く、物価や金利が上がる。今のところ景気が良くなる状況ではない。
やや悪くなる		百貨店（営業担当）	・アベノミクスで好景気になりつつあり、公共投資等も活発化してくるのではとされているが、当地では賃金が上がるまでには至っておらず、厳しい状況はしばらく続く。客の買物の仕方をみても、非常にシビアになっている。小売の景気としては、今後まだまだ厳しくなる。
		百貨店（店舗事業計画部）	・直近では景気が良くなりそうな報道が目立つが、一時的な円安や株価回復のメリットを受ける客が当店には少ない。むしろ、電気料金の値上げや消費税増税、電力会社の経費削減策が広く波及し、給与等の増加も期待されず、今後は厳しい。
		コンビニ（店長）	・新年度が始まり、税金等の支払いに追われ、ぜいたくできない客が多い。買物客より支払客のほうが多い。今後もこの状況が続く。
		衣料品専門店（店長）	・町から人の姿が消えている。暖かくなる3月に期待する。
		家電量販店（従業員）	・現在新生活に向けての準備等で購入する客が増えているが、今月末のピークが終われば、また購入する客は減る。厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・決算が終わり、来店客が少なくなる。今後は厳しい状況が続く。
		その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	・ガソリン価格の高騰や電気代の値上げ等、マイナスの要因が多い。
		高級レストラン（経営者）	・2月末の選挙が終わり、3月の予約が少しずつ入ってきており、月末は歓送迎会、特に送別会のニーズが多い。3月前半の予約が少なめなので来月はやや下向くが、今年の3月よりは良い。
悪くなる		競馬場（職員）	・来場者数や売上の推移をみると、今後は前年を下回る。
		スーパー（店長）	・来年の消費税増税や将来の年金、また雇用問題等、先行きに関して安心できる状況がみえない限り、景気は上向かない。
		都市型ホテル（販売担当）	・電気料金が上がり、T P Pへの参加が決まれば市民の生活に影響を与える。今後、景気は悪くなる。
企業動向関連 (九州)	良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・自治体向けについては補正予算が確定したことで追加の受注が見込める。
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・円安傾向で輸入物が値上がり始めており、その反動で国産物の価格が安定している。円安は畜産関係にとっては餌代等のようなマイナス面もあるが、総じてプラス要因のほうが大きい。加えて、春先以降は大手加工メーカーのメニュー変更があり、原料肉の引き合い等が強い季節となる。特に今年は政権交代の影響で景気上昇の期待感が大きく、各取引メーカーから色々な話がきている。
		家具製造業（従業員）	・4、5月の家具需要見込みが例年より10%程度増えている。3か月以降の商業施設新設の情報も確実に増えており、昨年より動きは活発である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・3、4月は一番商品が動く。また機能性食器類がいくらか決まりかけている。また、消費者の動向も商品開発も大分動いており、その点も期待している。

鉄鋼業（経営者）	・以前は一時的に販売量が増えることがあっても長続きせず、その後2～3か月の契約量は激減といった状態だった。その傾向に変化がみられるようになり、大幅な増加には至っていないが、以前に比べて継続的に販売量が増えている。今後もこの傾向が続く。	
金属製品製造業（企画担当）	・当社製品は公共投資の依存度が高いため、大型補正予算の成立により、今後の需要増が期待できる。	
一般機械器具製造業（経営者）	・円安になると原材料を輸入している業者からの値上げに対応しなくてはならなくなるという懸念はあるが、輸出しているユーザーの動きが良くなる。	
一般機械器具製造業（経営者）	・エネルギー関連及びその他の設備の引き合いが増えている。また、機械部品加工の見積が増えており、景気は良くなる。	
精密機械器具製造業（従業員）	・3月までの生産計画は上向きとなっている。今期は今のところ黒字計画で進んでいる。	
輸送用機械器具製造業（営業担当）	・得意先の生産量が増加するため、今後景気はやや良くなる。	
建設業（従業員）	・政権交代により、公共工事の予算増額が決まり、業界にとって景気は上向きになる。見積案件も多くなっており、受注に結びつけたい。また、消費税増税の駆け込み受注も見込まれ、景気は上向き。	
建設業（社員）	・平成25年度の発注が今年4月にはあるようであるが、3月にどれだけ補正予算関連の工事が発注されるか期待している。	
通信業（経理担当）	・景気上昇の流れを肌身で感じている。少なくとも、参議院選挙までは上昇を続けていき、今後に期待できる。	
金融業（従業員）	・製造業では円安効果により、海外からの引き合いが増えてきているほか、公共工事に絡んだ商談が増加している。また、個人消費はスマートフォンや軽自動車の売行きが好調であり、住宅投資も持ち直してきている。	
金融業（営業）	・円安効果により、国内生産の見直しがある。長期的には海外への生産移転のトレンドは変わらないが、短期的には下請企業の受注は、現状維持もしくは増加する。	
金融業（営業担当）	・取引先の動向をみると、建設業を中心に受注が増え、預金口座の動きも活発になっている。	
金融業（調査担当）	・取引先の話でも、政府の政策への期待感が大きい。また、消費税増税前の資金需要も底堅い。	
不動産業（従業員）	・市内の収益ビルの売上の引き合いが増加傾向にあるため、今後、都市部の不動産価格が上向き。	
経営コンサルタント（代表取締役）	・昨年末の政権交代以降、経済の雰囲気は非常に明るくなっている。まだ数字としては表れてはいないが、今後、春先にかけて若干好転するのではないかと期待される。	
経営コンサルタント（社員）	・経営の動きが活発化しており、前向きな投資が始まっている。	
変わらない	食料品製造業（経営者）	・1月は業績が大きく後退したが、2月に入ってほぼ昨年並みの売上を達成しつつある。しかし依然として、1、2か月前の予測が困難である状況に変わりはなく、楽観できない。納入先の客単価も依然として下げ止まりが続いており、来客数が増加する要因が見当たらないので、景気は変わらない。
食料品製造業（経営者）	・円安の影響で海外品と国産品の価格差が小さくなっている。今すぐ影響はないが、今後の国産品の需要拡大に期待したい。	
繊維工業（営業担当）	・仕事は増えつつあるが、取引先が合併したり、倒産したりしている。	
輸送業（総務）	・東日本大震災の復興需要や消費税増税前の住宅着工件数が増加し、建築資材関係の荷動きは増えてきている。しかし、全体的にはまだまだ低迷している。	
通信業（職員）	・受注予想に景気回復の兆しは明確に表れておらず、少なくとも平成25年度当初は現状と変わらず、景気は低迷したまま推移する。	
金融業（得意先担当）	・足下の業況が非常に厳しいなか、代表者の景況感は以前として厳しい状況にあり、変化は見受けられない。引き続き、取引先企業の動向に注視していく必要がある。	
新聞社（広告）（担当者）	・広告出稿に結びつくような大型のトピックスが少なく、通信販売と旅行広告が売上の中心となる傾向は、今後も変わらない。	
広告代理店（従業員）	・新聞折込の受注枚数は前年比3%減と昨年4月以降、前年を超えることができない。円安や株価の上昇で景気が好転しているとの報告があるが、折込広告の柱の一つの不動産やスーパー等の業種はまだ反応がない。パチンコ等の娯楽関連も広告費の削減が続いており、ピーク時の8割も回復していない。しばらくはこの状況が続く。	

		広告代理店（従業員）	・長期低迷状態から抜け出せない。今後も厳しい状況が続く。
		経営コンサルタント	・経営の方針が内向きになっている。コスト削減を重点に置く企業が多く、新しい仕事に取り組む動きがあまりみられない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・新規問い合わせ件数に大きな動きはなく、しばらくこの状況が続く。
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・円安が続いているので、非常に飼料価格が上がり、非常に厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現状のままいけば、景気はやや悪くなる。企業の方針を変え、今まで開発してきた商品を世に出すことで良くなるように努力する。
		輸送業（総務担当）	・預かっている荷物は輸入品が多い。円安で電気代や燃料代は値上がりしているが、生活必需品は現状維持となる。また、料金値下げの要請がきている。
悪くなる		輸送用機械器具製造業（経営者）	・自動車関係の取引先の年度生産計画から判断し、景気は悪くなる。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・建設コンサルタントに関する業務は、減少の一途を辿っており、底がまだみえていない。道路等の建設工が増えるのではないかと見込んでいる他業者もおり、ハローワークの道路設計の求人は先月よりも増加しているが、先が見通せない状態にある。発注される見込みがないため、このまま景気は悪くなる。
雇用関連	良くなる	—	—
(九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・事業計画を聞いているなかで、今後もまだまだ求人ニーズが出てきそうである。
		人材派遣会社（社員）	・自民党政権への期待なのか、労働者が前向きに行動し始めた。求職活動もその一つで、人が動けば消費が増える。
		人材派遣会社（社員）	・政権が代わり、期待感が出てきているなか、実際に人手が欲しいという企業が多く出てきている。4月以降も人手が欲しいという企業が多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・金融緩和策の効果が出ており、ムードも実態も景気は良くなる。今後も継続する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・政府の経済政策により、明るい兆しがみえ始め、企業活動が活発化しつつある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業の景気回復への期待感が高く、求人の動向は良い。学生の就職活動も厳しいながら、多少明るさがある。
		職業安定所（職員）	・円安や株高により、消費マインドが好転しており、求人の増加が見込める。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・採用担当者のお話でも前向きな話が多く出ている。従来の欠員補充以外の新規採用が今後期待できる。
変わらない		人材派遣会社（営業）	・現在の求人数は昨年とあまり変化がなく、今後もこの状況が続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・労働条件が悪い地元中小零細企業の人材確保が困難になる傾向が続く。
		職業安定所（所長）	・管内においては各業種とも改善の要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・管内企業にはアベノミクスへの期待もみられるが、電気料金の値上げや中小企業金融円滑化法期限切れの影響等、不安材料もあり、先行きは不透明である。
		職業安定所（職業相談）	・1月から大手カメラ部品製造工場が減産体制に入ったことから、下請会社従業員を中心に期間従業員の雇止めによる離職者が増加している。ただし、4月から生産量が回復する話もあり、影響は限定的となる。
		民間職業紹介機関（職員）	・年始から求人数についての目立った動きはなく、年度末商戦に向け、営業中である。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・求人数は増加しているものの、厳選採用という厳しい就職環境は継続している。また、採用予定数に満たなくても選考活動を終了している企業も見受けられる。今後もこの状況が続く。
やや悪くなる		民間職業紹介機関（社員）	・派遣延長がないという話に加え、4月以降新規派遣利用や追加利用の声も少ない。地元企業に対して派遣利用の営業活動を続けているが反応は少ない。今後も厳しい状況は続く。
悪くなる		民間職業紹介機関（支店長）	・法規制の強化や客の採用意欲の減退、製造業や情報通信系、金融系といった大口の新規注文が欠員補充、短期間限定のものに限られている。今後も厳しい状況が続く。